

令和2年度後期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、授業をより良く改善するため、前後期末に学生による授業アンケートを実施している。また、授業担当教員からは、その結果を踏まえた授業改善メモを提出してもらい、内容をとりまとめ、ホームページ上に公開している。この授業改善メモには、教育改善のための有益なコメントや要望等が多数含まれている。

以下、令和2年度後期の授業に対して提出された授業改善メモを、1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間、2. 受講生が実感する学習成果、3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み、4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点、5. 遠隔授業において工夫した点、課題等、6. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、等）等に分類し紹介する（同様の内容に対しては、代表的なもののみ残した）。共通教育センター及び部門内で検討すべき内容の抽出の為に、全記録内容を別途 manaba の「共通教育FD」にて提示する。

初年次セミナーⅡ

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
 - ・楽しいと言ってもらえるような授業のあり方を目指し、負担感ばかりが強調されるような課題の出し方はしない。
2. 受講生が実感する学習成果
 - ・課題も manaba の掲示板を用いて学生間の意見交換を促すデザインにするなど、相互互恵的な学びを支援した。このような工夫により、学生が実感する学習効果も高まったと考えられる。
3. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
 - ・前後期異なる教員が担当すべきだと考える。閉ざされた状況では教員の責任感が弱くなる可能性があり、前後期異なる教員が担当することによって様々な事項が平準化されるのではないだろうか。
 - ・「対面でないのでグループワークが難しかった」といった、遠隔下ならではの改善意見もあったため、今後の課題としたい。
 - ・「理系・文系」という分け方が通用するのは大学入試までで、これからはそのような世の中ではないことをいかに共有していくかがポイントではないかと感じている。
 - ・グループプレゼンテーションまでの準備時間がもう少しほしかったという意見があった。
4. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、等）
 - ・初年次セミナーをスリム化すべきである。
 - ・徹底的に身につけるべきスキルを厳選し、そのスキルを 100%全員が身につけるような授業スタイルをいち早く構築すべきである。
 - ・「理系には意味がない」というマインドは、年度開始時に拾い上げ支援しておく必要がある。そのために、学部との連携や教員からの情報提供も非常に重要だと考えている。
 - ・授業設計を行った側からの反省点は多い。担当教員からいただいた指摘をもとにさらに改善していきたい。
 - ・学生・教員・学生アドバイザーともに不慣れな遠隔授業であっても、その場でできる限りの学びに取り組みたいとの思いが学生の言動から感じられ、教員も励まされ勇気づけられた。

5. 遠隔授業において工夫した点、課題等

- ・受講生お互いの表情が見えづらく、グループで打ち解けられなかったとの意見もあった。

体育・健康科学理論

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「30分未満」が最多の54%で、次いで「30分以上～1時間未満（25%）」であった。予習と復習の指示を、より具体的に示す必要性を感じる。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・「十分得られた」が最多の52%で、次いで「おおむね得られた（44%）」であった。基本的に授業内で学習内容を修得させる内容でデザインしているため、この項目で最高評価が過半数だったことは安心した。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「積極的に促していた」が84%と高く、Zoomの機能やRespon等のICTツールを使用し、学生の主体性を促進する様々な工夫を行った成果が現れたと思う。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とても良かった」が71%と「他学生と積極的に意見交換出来た」ことに対する評価や「ミニッツペーパーの質問に対する丁寧な回答があった」ことが高かった一方で、「グループワークの時間が長い」という意見もあった。時間やワーク内容の再検討を行う必要がある。

5. 遠隔授業において工夫した点、課題等

- ・Zoomのブレイクアウトルーム、Respon、manabaを駆使して、受講生の個人の取り組み、グループの取り組みを促進出来た。

6. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、等）

- ・遠隔下におけるグループワークでは、情報基盤センターや講義室等、他の学生と一緒に遠隔授業に参加している学生への配慮が必要と感じた。

体育・健康科学実習

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「30分未満」が最多の30%程度であった。運動習慣を獲得するために自主的に運動をしてもらい、それを報告してもらっていたが、ほぼ100%の学生が週30分以上の運動を実施していたため、それをこの項目に含めることを促す説明が不足していたと思われる。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・「おおむね得られた」が過半数であった。準備した遠隔授業用コンテンツのうち、自宅で実施可能なストレッチと筋トレへの興味が高かったようで、受講生の主観としては、比較的高い学習成果が得られている。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「おおむね促していた」が過半数であった。自宅自室で実施可能なコンテンツを準備し、

遠隔下でも運動を実施できたことが現れている。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
 - ・「とても良かった」が過半数であった。遠隔授業と対面授業のハイブリッド授業で展開した後期では、感染症対策を行いながら、落ち着いて授業を実施することが出来た。学生からは、対面授業を多く望む声が多いため、今後も、より確実な感染症対策を行い、授業では絶対に感染者を出さないよう配慮したい。
5. 遠隔授業において工夫した点、課題等
 - ・Zoomのブレイクアウトルーム、Respon、manabaを駆使して、受講生の個人の取り組み、グループの取り組みを促進出来た。

英語

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
 - ・教科書の予習以外に、課題、小テスト、プレゼンテーションに向けての準備などがあったので、平均して1.5～3時間程度学修していた。
2. 受講生が実感する学習成果
 - ・ It was good to see all students recorded high levels of improvement, especially communication skills.
 - ・ 課題の添削などにより、フィードバックが得られ、理解できたとの回答が見られた。
 - ・ 英語 IIA=100% (十分 23%&おおむね 77%)
英語 IIB=100% (十分 55%&おおむね 45%)
英語 IV=90% (十分&おおむね)
 - ・ 十分/概ね得られたが全体の9割以上を占めたが、そうでないと回答した受講生にとっては、実感が伴わなかったわけであるから、教員の努力不足を思う。
 - ・ 十分/概ね得られたが全体を占めたが、未回答の学生たちの声も聞く必要がある。
 - ・ 成績の結果が良かった時には学習成果が上がったと感じているが、そうでない時はマイナスの成果としてとらえているようだ。
 - ・ 前期で復習・練習した文法・語法事項や発展させた英作文力を用いて、主に日常生活レベルのコミュニケーションを英語で行なうことができる。
 - ・ 英語 IIA: 自主的に考える内容が多いという意見が多く、トピックの振り返りを上手く導入できたように思える。
英語 IIB: プレゼンテーションの練習が役立ったという意見があった。原稿なしで話すことも練習できたようだ。
3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
 - ・ It was great to see that many of the students recorded the highest level in terms of encouragement to think independently.
 - ・ 「おおむね促していた」が多く、前期よりはZoomを積極的に導入したため改善された。
 - ・ 英語 IIA=100% (十分=54% &おおむね 46%)
英語 IIB=100% (十分=100%)
英語 IV=100% (70%以上=十分促している)
 - ・ I think it shows that the focus of the classes is clear to the students and they are all understanding the purpose of each class.
 - ・ 肯定的な結果で、否定的なものはなかったが、自主的な考察を促すよう更に努めたい。

- ・積極的に／概ね促していたがほぼ全体を占めたが、限られた時間の中での取り組みを続けるしかないと思われる。
- ・テキストの難しさを考えるに予習復習を徹底して行わないと惨憺たる結果になることを知ってもらいたい。
- ・スピーチやニュース・シェアを英語で行う（スピーチに関しては関連した質疑応答も行う）。
- ・教材の課題等をめぐり、英語でクラスメートと意見交換を行った。
- ・英語 IIA・IIB・IV：ブレイクアウト中の様子が伺えないため、ブレイクアウトへ行く前に残って確認を取るよう促した。無駄な時間にならないよう指示内容の理解を確認した。また、各ブレイクアウトルームに可能な限り入るようにした。
- ・学生自身が考えるように促す試みは行ったつもりであり、回答者は実際に自主的に取り組んでくれたようであるが、遠隔授業でグループ・ディスカッションをやらせると発言しないままの受講生もいるので、これにどう対処するかが課題である。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・Zoom による授業によりわかりやすさを改善し、グループワークで相手の意見が得られたり、書いたものを知ることができたりできた点が評価されている。
- ・英語 IIA=100%（とてもよかった 31%&よかった 69%）
英語 IV=100%（とてもよかった 64%&よかった 36%）
英語 IV=100%（とてもよかった&よかった 50%ずつ）
- ・Many expressed an appreciation of the "English Only" approach I use in the classroom. They also approved of the amount of group work incorporated and the class management style in general.
- ・Many expressed an appreciation of the amount of group work incorporated and the class management style in general. They were also thankful for the communication maintained over manaba.
- ・Many expressed an appreciation of the amount of group work incorporated. Many also said they felt their English improved through submitting opinion videos every few weeks.
- ・英文パラグラフの要旨をまとめるなど、必ずしも一つの表現方法にしぼることのできない応答内容について、全体で吟味する時間を意識的に授業内に組み入れる余地があるかもしれない。
- ・ネット環境要因により意見交換制約を受ける点を残念がる声が散見された（この点は、新年度の学内での「発声可能な開放教室」の有効活用で改善の見込みが強いと思われる）。
- ・発音や具体のやりとり（コミュニケーション）を対面で体験したかったという声があり、それはほぼ全員の思いであったろう。
- ・授業での前置きが長くないかとの指摘あり。毎回補足等があったとは思わないが、前回の補足等は箇条書きで新しい授業の前にマナバ経由で補足等を済ませておくのが良いのかもしれない。
- ・授業に対する総合的な評価は二分されていた。学習者（学生）自らの成績の不振を反省する前に何かにつけて合格点の取得にしがみつような学生が多く存在したことは実に残念なことであった。
- ・課題に対するフィードバックはきちんと行った。この点が良かったというコメントが多くあった。今後も様々な工夫を続けたい。
- ・総合的に見て、当該受講生の方々には（程度の差こそあれ）好感触を持って修了していただいたのでは…と思えるフィードバックであった。

<受講生からのコメント>

- *対面をするかしないかを学生にアンケートとってくれた。
- *生徒同士でスピーチをさせ、質問までさせていたこと
- *英語での自己紹介をしたことがなかったので新鮮でした。
- 英語 IIA: 題材に興味を持ってもらえたようで、安心した。スライドを進めるペースが早いという意見もあった。振り返りの内容が難しかったという意見がよくでてきた。思考を促せるように工夫をしたつもりだったが、難易度をよく考察したい。
- 英語 IIB: 課題の量が多いという意見が数人いた。
- グループ・ディスカッションに参加しようとしないう受講生にとって、いかに取り組みやすいような雰囲気作りと工夫ができるかが大事だと感じている。

5. 遠隔授業において工夫した点、課題等

- The students enjoyed the collaborative nature of the class (Groupwork). They also enjoyed the supportive nature of the professor who encouraged an active participation in class without the worry of making mistakes.
- Zoom での授業で、グループワークを多く導入し、授業トピックに関して話し合い、最後にグループの意見を発表する機会を設けた。また、自分の書いたものをお互いに発表し、様々な意見があることに気づかせる方法を試みた。
- One thing I have needed to adjust while adapting to real-time online teaching is the amount of material covered in a class period. Online learning tends to move a little more slowly than in a face-to-face classroom.
- Based on student responses in this class it seems many enjoyed using Flipgrid software to submit video responses to material studied in class. This is something I will continue to use in future classes, online or face-to-face.
- ブレイクアウトルームでグループ活動を行ったり、チャットで簡単なディスカッションを行ったり。
- 授業ごとに学生自らに振り返りの時間を少なくとも 10 分持たせ、重要だと考えた点等について報告を求めた。
- 繰り返して説明した点。(難解な英文の読解部分において)
- 3 クラス中 2 クラスは初級クラスで、英語が苦手な学生も多くいると思われた。ひとりでも不安なく取り組めるよう、教科書中の課題をより取り組みやすいよう内容を修正する、新たに別の内容を追加する、などの調整を随時行った。こうした調整は毎回かなり時間がかかり苦労したが、この点が良かったというコメントも割とあり、やって良かったと思った。
- 計画的に取り掛かれるよう、提出物の締切をまとめて提示した。
- ブレイクアウト中、メインルームで表示していたスライドが見れるように、別途資料を準備した
- 学生自らが授業内容に取り組めるように、教員はあくまでも補助の役割に徹して、各グループに入るときには、こちらからも問いかけをするように気をつけた。

6. 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、等)

- There were technical difficulties from time to time, and some students did struggle with the idea of working things out for themselves. Last year Zoom was new for all of us, so hopefully, most of these problem won't occur this year. As ever, their comments will be heeded.
- 解答の提示時間が短いとのコメントがあったので、もう少し長めに提示していきたい。
- One point raised is that many students liked being able to answer questions

through the Chat function on Zoom, rather than being called on to speak out. I may consider implementing this type of answering system in some way when face-to-face learning resumes.

- I am committed to using the manaba system more in the future, perhaps even eliminating paper from my classroom. Having easy access to all materials is of great benefit to me and my students.
- One point raised by some students was that the class often followed the same pattern, so I will try to vary the approach from time to time to maintain student interest.
- zoom でグループ活動を行うときに、1つのグループしか見ることができず、ほかのグループがアクティブなのかが分からない。
- ある程度まとまった英文の音読は、音読する者の英文の理解を他者へ総合的に伝える営みとみれるが、学生は意外と、学生同士で輪読など、読み合わせをする経験をしていないことに気づかされた。
- 特定学部の学生の不勉強（予習復習）には舌を巻いた。次年度も同じテキストを使用するが、試験問題の内容を再度検討したいと考えている。
- 遠隔授業のみで不安だったが、全体的に地道にきちんと取り組んでいたようだった。
- 積極的に授業に参加してくれる受講生はそれほど問題ないが、どうしても前向きにならない受講生がいることは確かなので、適切な対処法を今後も探し続けたい。
- 翻訳ソフトだけに頼り、内容の理解にまで至っていない学生がいた。提出物の内容などを細かく確認し、こまめに指導することが肝要である。

初修外国語

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
 - 科目全体の結果ともほぼ一致する結果だが、30分以上1時間程度の受講者が増えるよう、工夫したい。
2. 受講生が実感する学習成果
 - 「十分得られた」と「おおむね得られた」を合わせて92%であったが、より学習成果を実感できるよう、工夫したい。
3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
 - 「積極的に促した」と「おおむね促した」を合わせて92%であったが、受講者がより積極的に自主的な考察や取り組みができるよう、工夫したい。
 - 中国語ではアクティブラーニング、協働学習を中心に授業を設計し、メタ認知を育成するためのポートフォリオの活用やふりかえり等を設定しているが、それがアンケート項目にあるような「授業内容について考えさせるような促し」や、「講義内容に対する自主的な考察・取り組み」と言えるのか疑問である。別のことが求められているのか。イメージがわからない。
 - 週2回開講する授業であるため、学生の理解を助けるために、学生とのコミュニケーションをできるだけ設けた。／オンラインの授業中にペアワークやグループワークをする時、できるだけ多くのグループに入って活動の様子を観察し、適宜助言した。
4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「とてもよかった」と「おおむねよかった」を合わせて100%であった。特に丁寧な対応やドイツの文化に関する内容を評価する意見が見られたので、それらを参考に、受講者がより満足できる授業となるよう、引き続き工夫したい。
 - ・積極的にブレイクアウトルームで交流を促したことや、予習範囲や内容の指示、オンラインでのミニゲームなどが好評だった。
 - ・遠隔授業が中心で学生との直接的な接触が乏しかったにもかかわらず、予想以上に学生が高く評価してくれた。
 - ・また教員も受講生も初めてのZoom授業のため、種々の制約があったものの、ドイツの文化や社会、歴史に関して、様々な副教材を用いたことにより、受講生のモチベーションや関心を高めることができたことが、自由記述から窺える。
5. 遠隔授業において工夫した点、課題等
- ・説明を詳しくすることと、授業内容についても課題についても適度な分量にすることを心がけたが、この点は、アンケートの自由記述でも評価されていた。
 - ・対面での交流ができない状況において、ブレイクアウトルームを積極的に活用し、クラスの交流を促した。
 - ・毎回の課題をマナバに提出してもらっていたが、課題はすべて添削して返した。
 - ・韓国語の授業は遠隔授業（リアルタイム）で行ったが、学生全員ビデオを常時オンにして学生の反応を見ながら進めた。学生の顔と名前を全員覚えるように努めた。
 - ・毎回授業後に質問時間を設けて質問のある学生に対応した。
 - ・コロナ禍のため前期に引き続きZoom授業となったが、まずは受講生が孤立感を感じないよう、毎回2人～3人のブレイクアウトセッションを採り入れ、ドイツ語のパートナー練習を通して、友人関係を築いてもらうことに努めた。またZoomによる眼精疲労や精神的疲労を抑えるべく、課題も最低限必要なものに制限した。一方で、受講生にドイツ語やドイツ語圏の社会と文化に積極的な関心を持ってもらうよう、興味深いオンライン教材やウェブサイトを紹介したほか、一部は授業でも活用した。
6. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、等）
- ・詳しい説明と丁寧な対応を心掛けました。
 - ・ブレイクアウトルームでランダムにグループ分けしていろいろな人と交流できることや、学習者に「オンラインでのやりとり」のための技能（簡体字入力やアプリでの交流）を習得させられることなど、オンラインならではの効果が見られた。コロナの終息後もこうした遠隔授業のメリットについては十分に活かしていくべきだと思う。
 - ・遠隔授業であったにもかかわらず学生が授業に積極的に取り組んでくれた。
 - ・韓国語は統一授業を行っているため、韓国語スタッフ同士で到達目標の再確認をすることや授業に関する意見交換を行ってきたが、さらに話し合う機会を増やしていきたい。
 - ・受講生の履修態度は極めて良く、活発にパートナー練習を行い、積極的に挙手していた。総合的に授業の質と内容は対面授業以上のものが提供できたと考える。また授業を通じて学生同士でコミュニケーションを取っており、初回のスクーリング以前にすでに親しくなっていたのは嬉しく思った。

教養教育科目

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
- ・1時間未満が2/3、を占めているのもう少し考えさせる工夫が必要。
 - ・概ね想定した学習時間であるが、一部極端に時間をかけている学生がいた。最終発表

に向けた準備と推測されるが、準備作業が一時期に集中しないよう改善する。

- ・レポートを細切れで提出させた方がいいか、検討したい。
 - ・1時間以上1.5時間にピークが来るよう、指示をさらに具体化するなどの対応を取りたい。
 - ・授業改善案として、講義内容の振り返りを促すように自分との関連について考えてもらえるようにレポート等を活用すべきである。
 - ・実験科目であるため、授業時間外での学習を求められる性格のものではないが、今後の検討課題と考えられる。
 - ・適切な課題設定が必要である。難易度を下げるということではなく、そのレベルに達するのに必要な情報をしっかり提供し、EXCEL操作などでスキルが伴っていない学生への個別指導で対応したい。
 - ・授業時間外に読ませる（聞かせる、見せる、を含む）資料等を増やしたい。
 - ・日本だけではなく、英語で読める海外メディアなどをもっと紹介するなど多様なチャンネルにアクセスする機会を与えたい。
 - ・予想をはるかに上回る数の学生が授業時間以外に学習し、しかも長時間取り組んでいたのに驚いた。今後はしっかりとした課題を出すように心がけようと思う。
2. 受講生が実感する学習成果
- ・高校化学履修者にとっては復習になってしまうが、興味を高めるような項目も追加したい。
 - ・物理を履修している受講生にとっては、少し物足りなさを感じたかもしれない。
 - ・学生の理解度や経験度の開きが大きいことを踏まえて、それぞれの学生がそれなりのレベルで「科学レポート」をまとめられる様な授業プログラムに改訂していく様にしたい。
 - ・少人数教育でもあり体面授業が好ましいと考えているが、意外にもオンライン授業の方が教員とのやり取りが容易なようで学生の意見を詳細に聞くことができたためと思われる。
 - ・海外との学生と世界の問題について話し合う機会を作りたい。
3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
- ・アンケートの目的をその都度説明する必要がある。
 - ・自然科学の知識を身近な健康課題と結びつけるようにして自分に役立つ知識と感ずるように工夫したのが評価された。
 - ・チャットやResponによる質問受付は行っていたが、小テストの実施なども検討したい。
 - ・本実験では、非常勤の先生方にも手伝っていただいているが、教員側の意思統一をしっかりとしたい。
 - ・200名以上の授業を対面で実施するよりも良い面と伝わらない面があった事を実感している。
 - ・考察した内容を何とかレポートにまとめる、これに力点を置く必要がある。
 - ・ZOOMを使って授業を行ったが、どうしても一方的にこちらが話す形式となってしまうので、今後はグループ分けして話し合う場を作れたらと思う。
4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点
- ・授業時間をオーバーすることが多々あったため、時間厳守に注意したい。
 - ・授業で得た知識を専門分野の知識や将来とつなげて考えてほしいという意図もアンケートに記載があった。
 - ・多くの専門家の講義を受けられた点が評価されていた。一方でオムニバスのため教員

間の対応の差がある点が指摘があった。Zoom ID などの一覧表の作成や資料の提供法など、大学でもある程度の方針が統一されると学生は混乱しないかもしれない。

- ・高校時代に生物学を未履修であった一部の学生にとっては依然として内容が難解であったようなので、今後、より一層丁寧な説明を心がける必要がある。
- ・レポートの負担が大きいとの意見があった。レポートの意義を受講生にしっかり伝える努力をしたい。
- ・スケジュールに関する不満が大きく、事前の説明がもっと必要と感じた。
- ・小テストは対面時と同様な問題量であったが筆記と違い少し量が多かったかも知れない点は改善点である。
- ・教養科目としてもっと一般性や普遍性を充分考慮して内容や課題を洗練していく必要があると考える。一般人として備えて欲しい・磨いて欲しい時空（時間と空間）認識能力や論理的思考力、計算技法が何かについて丁寧に解説することが必要であろう。
- ・「グループワークの進め方、資料の集め方、などについて学習する教材が、もう少しあると良かった。」という指摘もあった。これについては、学生の選択したテーマにとって資料を適宜配布したがそれが足りなかったということであろう。
- ・学生の自主的な取り組みを促す工夫をしたい。
- ・自然科学であるのに、物理分野や化学分野に比べて、授業内容のボリュームが多すぎる」との指摘が毎回出る。
- ・講義で扱う題材の選択は適切であるが、全学部向けという観点からは、難易度（専門性）調整の検討が必要かもしれない。

5. 遠隔授業において工夫した点、課題等

- ・新型コロナ禍であっても、対面講義が実施出来る環境が欲しい（ソーシャルディスタンスが確保される教室作り）。
- ・なかなか話そうとしない学生も多かった。どのように会話を促すか検討する必要がある。
- ・一人で科目を担当したので、統一性をもった教育が提供できた。小テストを利用し理解を確認する手段を提供した。講義アンケートを毎回実施し感想や質問には必ず答えることで遠隔で不足しがちな双方向性を確保した。講義資料はManabaのコンテンツに掲載し、共通教育系の協力を得て紙媒体でも配布を行ったことは学生から高く評価されていた。紙媒体の配布を組織として提供してほしい。
- ・各自の学習を振り返るために小テストを利用し、講義資料はManabaのコンテンツに掲載した。一部は共通教育系の協力を得て紙媒体でも配布を行った。
- ・各自パソコンスペック、OSが異なるため、演習はどうしても対面の方が良い。
- ・slido等、双方向型のツールを利用して見たが、不慣れなせいか頻繁に利用する事ができなかった点が今後の課題である。
- ・Manabaやオフィスアワーの機会を積極的に活用してもらい算段を検討する必要がある。
- ・今年度作成したオンデマンド用講義音声は、来年度以降も予習・復習用に使えると思う。
- ・遠隔授業では、講義に関する注意事項等が思ったより行き渡らず、繰り返しアナウンスする必要がある。
- ・今年はZOOMですしスライドを厳選し話すスピードや明瞭さとかに気を付けた。

6. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、等）

- ・感染対策を徹底はしているが、数少ない対面講義であったため、ストレスを感じた。対面講義やWeb講義に長けた人材の支援が欲しい。

- ・「発言する機会が多く、みんなの前で話すことに抵抗がなくなった」等のコメントも複数あり、この点をさらに伸ばしていきたい。
- ・少人数で遠隔講義でもしっかり受講できており、総合大学として保健学と各専門領域との関連もいれながら共通教育としての講義を内容にしたのも学生には理解してもらえたようであった。受講者数が多くなった時の課題はあるが、全般的には初年度にしてはうまくいったと考えている。
- ・全体的には遠隔講義でもしっかり受講できていたが、一部学生で出席が足りない時などは、オムニバス形式では覚知が遅くなり、指導が難しかった。出席など事務的にできるように何らかの統一的な手段があると学生は混乱しないかもしれない。
- ・海外の来日できない留学生の教科書をどう調達してあげるかが解決できると良いと考える。
- ・来年度はどういう授業で対面授業実践を優先させ（実験や実技だけでない!）、どういった授業でオンデマンド講義を普及させるのか、はっきりした目安の設定とこれらを踏まえた教室の優先的確保をするのが良いだろう。
- ・認証評価のこともあり、このような大規模の科目でのアクティブラーニングや成績評価法等をFD等で扱っていただきたい。
- ・初めてZOOMで授業を行った。出席率がよく、対面での質問は皆無だったのが、鋭い質問を書いてくれる学生が結構いて自分の勉強にもなった。

日本語・日本事情科目

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間
 - ・半数以上の受講者が1時間以上の自主学習時間と回答しており、おおむね授業設定の通り計画的に学習している様子が見える。一方で、3時間以上と負担が多すぎる学生や、30分未満と授業外での学びが十分に見込めない学生については、個別指導も考えながら今後は進めていきたい。
 - ・週2～3時間の復習・予習を求める授業設計をしているが、アンケート結果からばらつきが見られた。日本語能力差によるものと思われるが、配慮が必要な受講生には個別の対応を強化したい。
 - ・回答者の88%が演習科目に必要な1時間以上の時間外学習を行っている。課題の難易度、分量について今後も引き続き検討していきたい。
2. 受講生が実感する学習成果
 - ・「十分得られた」が71%と全科目中最も高く、留学生対象科目の教員同士が連携して準備、取り組みを行った成果がある程度反映された。
 - ・受講生のニーズに合わせたテーマをもとに、アクティブラーニングを取り入れ各国の事情紹介も行いつつ日本事情を客観的に考察する授業のやり方は今後も続けたい。
 - ・受講生のニーズに合わせたテーマをもとに、アクティブラーニングを取り入れ各国の事情紹介も行いつつ日本事情を客観的に考察する授業のやり方は今後も続けたい。
3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み
 - ・実践的活動を通して日本で学ぶための力をつけるという目標に対して一定の評価があった
 - ・今後も受講生が自主的に考察するような促しを継続したい。
 - ・講義の後、内容理解を促進するための課題を行った。教員もこの課題をチェックすることで学生の理解度を把握するよう努めた。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・授業評価、コメント合わせて、大変肯定的な意見が多く、未入国の留学生も含め、コロナ禍という状況下で学習内容の習得を目指しながらも、学生個人のケアに十分注意を払った事が評価の対象となっている点に、本科目群の特徴がある。
- ・自国・他国のことも議論する目的を受講生に周知しつつ、日本事情の内容を可能なかぎり増やそうと思う。
- ・学生同士の相談や会話する機会の環境の存在が良かった。
- ・グループワークのメンバーがずっと決まっているから、非協力的なメンバーがいたらもうお終い。最初から最後まで、ずっと同じメンバーだから、グループワークがうまく進めない。そこを何とかしたい。
- ・授業の前に、資料とかを配布して、読めない単語などを調べるという予習課題があること。これで授業内容が理解できないという留学生も減るだろう。あと、社会課題について考えさせようとする点も、とても良かった。

5. 遠隔授業において工夫した点、課題等

- ・Google Spreadsheet 等の同時編集が可能なツールを使い、皆が「話す」代わりに「入力する（書く）」ことで、リアルタイムで視覚的に意見交換を行えるよう工夫した。
- ・Zoom 操作は、授業開始時とブレイクアウトセッション時はカメラを ON にしてもらい受講生の状況を把握するようにしたが、それ以外の時間帯はカメラを OFF にしても可としていたため指名して質問しても授業に取り組んでいない受講生が見受けられた。今後は、Google Spreadsheet 等を授業中に複数回利用し、書き込む形で受講生の参加を促そうと思う。
- ・グループワークの際、初めは作業的なタスクを協力して行くと、その後の意見交換が比較的やりやすくなるようだ。

6. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、等）

- ・学生側の機器整備、通信環境状況によって授業進行に影響が出たことが複数回あった。未入国学生への教科書指示・購入も課題。
- ・授業内容を受講生の意向をもとに決定するやり方は評価を得ている。可能なかぎり授業テーマを増やしていきたい。
- ・ブレイクアウトセッションに参加する受講生の出身国数が多いため小レポートのまとめ方が難しかったという意見が寄せられたので、今後はまとめ方の指導をするとともにグループの人数等を減らすようにしたい。
- ・カメラを OFF にすることで、学生の反応や状況が全く分からなくなる。少人数のグループセッションではカメラを ON にするよう指示したが、なかなか抵抗があるようだ。

掲載日：令和3年10月6日

文責：鹿児島大学共通教育センター

FD委員会委員長 今井 裕